

**公益社団法人 大阪府柔道整復師会**  
**令和3年度 大阪柔整少年少女柔道大会(小学生の部)**  
**実 施 要 項**

- |     |      |   |
|-----|------|---|
| 1、  | 主 旨  | 柔道を通じて、少年少女の健全なる心身の育成に努めると共に、柔道整復師に対する理解を深め、柔道の発展に期することを目的とする。  |
| 2、  | 主 催  | 公益社団法人 大阪府柔道整復師会  |
| 3、  | 後 援  | 大阪府、大阪府教育委員会、大阪市・大阪市教育委員会、NHK大阪放送局<br>大阪府柔道連盟、大阪府柔道道場連盟、大阪府柔道整復師協同組合  |
| 4、  | 大会日時 | 令和3年6月19日(土) 15時開始(4年生) 受付 14時～<br>令和3年6月20日(日) 10時開始(5年生) 受付 9時～<br>14時開始(6年生) 受付 13時～   |
| 5、  | 大会会場 | 大阪柔整会館 5階柔道場  |
| 6、  | 参加資格 | 大阪府内在住、在籍の団体に所属する小学生(4、5、6年)で各学年2名までとする。  |
| 7、  | 試合方法 | ① 国際柔道連盟試合審判規定「少年大会特別規定」並びに本大会申し合わせ事項に準じて行う。<br>② 「優勢勝ち」の判定基準は「技有」または「指導差2」以上とし、「指導差1」または同等な場合は僅差(旗判定)をもって勝敗を決する。<br>③ 試合はトーナメント方式とする。<br>④ 試合時間は2分間とする。<br>但し、準決勝、決勝戦においてはロスタイム有りとする。<br>⑤ 参加選手は必ず背部にゼッケンを付けること。無い選手は出場を認めない。<br>⑥ 本大会は、感染防止対策として試合時に使用する「赤帯」は各団体に準備すること。<br>⑦ 逆背負投げは禁止とし、かけた場合は「反則負け」とする。<br>⑧ 「両袖を持って施す投げ技」を禁止とし、施した場合には「反則負け」とする。<br>⑨ その他不測の事態が生じた場合の処置は、審判長に一任する。 |
| 8、  | 表 彰  | 優勝、準優勝、3位には賞状等を授与する。  |
| 9、  | 参加費  | 無 料   |
| 10、 | 備 考  | ① 参加選手は必ず保護者の承諾を得ること。<br>② 本大会における負傷等については応急処置の他、主催者は一切その責を負わない。<br>③ 大会当日、体調不良の者は出場しないこと。<br>④ 選手の変更は開始30分前で締切る。<br>⑤ 審判、監督会議を19日は14時30分、20日は9時30分より5階柔道場にて行う。<br>⑥ 新型コロナウイルス感染防止対策として「開会式」及び「閉会式」は行わない  |
| 11、 | 申込期限 | 令和3年5月14日(金)  |
| 12、 | 申込方法 | 本会ホームページ(URL: <a href="https://www.osaka-jyusei.or.jp/">https://www.osaka-jyusei.or.jp/</a> )にアクセスして必要事項を記入の上、主催者までE-mail(jyudou@osaka-jyusei.or.jp)にてお申込み下さい。  |
| <   | 特記事項 | 小学生個人の部優勝者及び準優勝者(4年生は優勝者のみ)5名は大阪代表チームとして、11月21日(日)開催の日整全国少年柔道大会に出場できる。  |
| <   | 注意事項 | ・大会1ヶ月前以内に脳しんとうを受傷した者は、脳神経外科の診察を受け、出場許可を得ること。<br>・大会中、脳しんとうを受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする。<br>(なお、至急、専門医(脳神経外科)の精査を受けること。)<br>・練習再開に際しては、脳神経外科の診断を受け、許可を得ること。<br>・当該選手の指導者は大会事務局及び全柔連に対し、書面により事故報告書を提出すること。<br>・監督・コーチの服装は審判員に準じた服装でお願いいたします。<br>・駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用下さい。  |

**<新型コロナウイルス感染症防止対策について>**

**ガイドライン、健康管理表、同意書は本会HPよりダウンロードして使用すること。**

- ・本大会では無観客試合とする。
- ・入場できるのは、出場選手、監督1名、コーチ1名、審判員、救護員、補助員、大会役員のみとする。
- ・入場する者は「健康管理表」及び「同意書」を提出すること。(提出しない者は参加できない)
- ・会場内では、マスクの着用、換気、アルコール消毒、うがいを適宜行う。
- ・大声を出す等の感染リスクの高い行動を避け、感染防止策を徹底すること。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策についてはガイドラインに従うこと。